

1 令和2年度東京都自立支援協議会活動状況

第6期 東京都自立支援協議会委員名簿（令和2年度）

令和2年4月1日～令和3年3月31日

番号	名 前	所 属
会長	1 安達 勇二	文京区障害者基幹相談支援センター 所長
	2 岩本 操	武蔵野大学 人間科学部人間科学科 教授
	3 小倉 千明	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 本人部会代表
	4 鬼丸 功	練馬区福祉部大泉総合福祉事務所 知的障害者担当係長
副会長	5 金川 洋輔	地域生活支援センター サポートセンターきぬた 地域移行コーディネーター
	6 金澤 正義	社会福祉法人武蔵野会 東堀切くすのき園 施設長
	7 茅沼 孝治	立川市福祉保健部 障害福祉課長
副会長	8 川上 鉄夫	葛飾区福祉部 障害福祉課長
	9 河野 勝也	中野区健康福祉部障害福祉課 障害者支援係主査
	10 九鬼 統一郎	狛江市福祉保健部高齢障がい課 障がい者支援係長

番号	名 前	所 属
副会長	11 小阪 和誠	一般社団法人ソラティオ ピアサポート専門員
	12 佐藤 淳哉	障害者施策推進部 地域生活支援課長
	13 清家 政江	社会福祉法人JHC板橋会 障害者就業・生活支援センター ワーキング・トライ センター長
	14 曾田 夏記	特定非営利活動法人自立生活センターSTEPえどがわ 特定非営利活動法人DPI日本会議 特別常任委員
	15 富高 陽子	中野区地域支えあい推進部 北部すこやか福祉センター 保健福祉包括ケア係長
	16 西田 伸一	公益社団法人東京都医師会 理事
	17 平井 寛	社会福祉法人東京緑新会 多摩療護園 園長
	18 藤井 亘	特定非営利活動法人クローバー 事務局長
	19 森山 瑞江	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 副理事長

※ 五十音順

令和2年度 東京都自立支援協議会 活動のまとめ

第6期テーマ（令和元・2年度）： 都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに東京の協議会活動を活性化させる

協議事項に基づく検討 「当事者の多様な声を聴くための具体的な仕組みをつくる」

第1回本会議 5月18日（月） 書面開催

<報告・情報提供事項>

- (1) 第九期東京都障害者施策推進協議会について
- (2) 「令和元年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査結果について

<協議事項>

- (1) 令和元年度東京都自立支援協議会活動のまとめについて
- (2) 令和2年度東京都自立支援協議会協議事項について
- (3) 令和2年度東京都自立支援協議会活動計画について

<その他>

第2回本会議 2月25日（木）13時30分から15時30分まで

<報告・情報提供事項>

第九期東京都障害者施策推進協議会について

<協議事項>

- (1) 「令和2年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査票（案）について
- (2) 障害や難病のある協議会委員が協議会へ主体的に参加するための取組や工夫について
- (3) 地域の障害や難病のある当事者が声をあげやすくなるための取組や工夫について
- (4) 第6期の協議会活動のまとめ及び次期に向けての課題等について

<その他>

地域協議会の情報把握・共有

地域自立支援協議会交流会
日時：9月28日（月）13時30分から16時まで
会場：東京都社会福祉保健医療研修センター

当事者が「語る」ことを「聴く」には？
～当事者の声を聴き、具体的な取組を持ち帰ろう～

<グループ討議テーマ>

- ① 「当事者の語りを聴く」という点において、自分の区市町村における自立支援協議会の課題、工夫していること
- ② 今日の交流会を踏まえ、自分の区市町村に持ち帰ってやってみよう

東京の協議会活動の普及啓発

東京都自立支援協議会セミナー
日時：12月14日（月）13時20分から16時10分まで
会場：東京都庁第一本庁舎 5階大会議場

当事者の多様な想い・語りを聴くための仕組みを考える

講演 当事者の多様な想い・語りを聴くための情報提供のあり方

パネルディスカッション
私が言いたいことを言えた時

地域協議会の情報共有・発信

令和元年度版
東京都内の自立支援協議会の動向

調査項目、情報発信方法の検討
・地域自立支援協議会の様子がわかるよう具体的な取組を記述してもらう。
・各区市町村の地域自立支援協議会の活動状況を一覧にまとめ、動向集に掲載
・動向集と同内容をセンターホームページに掲載
・地域自立支援協議会のホームページリンクの一覧をセンターホームページに掲載

令和2年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

1 概要

目的: ①地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、活動状況に関する情報交換を実施することにより、地域自立支援協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。
②東京都自立支援協議会として、地域自立支援協議会の活動状況を把握する。

日時: 令和2年9月28日(月曜日) 13時30分から16時まで

場所: 東京都社会福祉保健医療研修センター
(9教室に分かれて実施)

対象者: 地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員
東京都自立支援協議会委員・事務局関係者

周知方法: 各区市町村の地域自立支援協議会会長、主管課長宛てに通知を発送
各区市町村の地域自立支援協議会主管課へメール及び電話連絡

参加者数: 93名

- ・区市町村参加者 62名(12区12市)
 - ・東京都自立支援協議会委員 14名
 - ・都事務局関係者 17名
- この他に、障害を有する方の支援者が8名参加

2 プログラム

テーマ 当事者が「語る」ことを「聴く」には?
～当事者の声を聴き、具体的な取組を持ち帰ろう～

ミニシンポジウム(事前撮影した動画を視聴)

今年度のテーマ選定理由

話題提供

<シンポジスト>

○東京都自立支援協議会副会長 曾田 夏記 氏
(特定非営利活動法人自立生活センターSTEPえどがわ)
(特定非営利活動法人DPI日本会議特別常任委員)

○特定非営利活動法人ピープルファースト東久留米代表 小田島 栄一 氏

○東京都自立支援協議会会長 岩本 操 氏
(武蔵野大学人間科学部人間科学科教授)

グループ討議

他地域の自立支援協議会関係者で意見交換(11グループ)

- ・「当事者の語りを聴く」という点において、自分の区市町村における自立支援協議会の課題、工夫していること
- ・今日の交流会を踏まえ、自分の区市町村に持ち帰ってやってみたいこと

※各グループでワークシートに意見等をまとめ、交流会終了後に参加区市へ情報提供

令和2年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

3 プログラム構成のねらい

1 交流会のテーマ設定理由(配付資料より)

- ①各地の自立支援協議会で、起きていること
○知的障害のある委員から、協議会について届いた言葉
「会議が難しかった。どんどん進んでしまい、わからなかった。」
「自分が止めると進まなくなるから、自分には難しいと思った。」
⇒誰でも、辞めたくなくて、当たり前
- ②自立支援協議会は、どう応えているか?
○区市町村へのアンケート(動向集)
「さまざまな障害のある委員が参加するにあたり、取り組んでいることは?」
<回答>
「点字資料の手配、手話通訳の手配」
「大型電動車いすでも入れる席のスペースを確保」
「資料へのルビふり」など
一何のために、これら(合理的配慮)をするのか?
これらは、障害のある人が、障害のない人と同じスタートラインに立つために必要なこと
- ③自立支援協議会に「ないもの」は何か?
「点字資料をつくらなきゃ!」「ルビをふらなきゃ!」の前に…
・「あの人の声を聴きたい」「あの人の意見を知りたい」という心からの気持ちだが、私たちの中にあるか?
・「当事者の声が反映される協議会」
⇒「当事者の『語り』を『聴く』協議会」というテーマに

2 交流会終了後の取組の促進

- グループ討議で「今日の交流会を踏まえ、自分の区市町村に持ち帰ってやってみたいこと」を意見交換し、取り入れたいアイデアややってみたいことを見つけ、次の一歩を具体的に設定する。
- 全体でグループ討議の共有をする代わりに、各グループの意見をワークシートにまとめ、後日、参加区市に送付
→ワークシートで他のグループのアイデアを共有する。

4 参加者アンケート

回答数: 65

ミニシンポジウム

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
24(36.9%)	36(55.4%)	4(6.2%)	1(1.5%)

グループ討議・全体会

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
29(44.6%)	35(53.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.5%)

<自由意見>

- テーマは各区市町村が課題と感じていることかと思うので、議論が盛り上がった。
- DVD視聴、小グループでの討議と初めての形だったが、逆に静かに集中してできたので良かった。
- 当事者の方にグループ討議に参加してもらえて良かった。
- 何が1つでも各協議会に持って帰ってほしいという思いがこもった構成になっていたと思う。自分の協議会を振り返って身につまされることは良かったが、大変勉強になった。
- 他区市町村の取組を聞くことができ、参考になった。すぐに取り組める内容もあると感じた。
- ミニシンポジウムの内容はとても良かったが、換気のため窓を開けていたので車の騒音や風によるブラインドの音で聞きづらかったのは残念だった。
- 感染対策がしっかりされており、安心して参加することができた。

令和2年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

1 概要

目的：東京における共通課題や取組、自立支援協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

実施方法：参加者は、会場参加又は動画視聴を選択

- (1) 会場参加
日時：令和2年12月14日（月曜日）13時20分から16時10分まで
場所：東京都庁第一本庁舎 5階大会議場
- (2) 動画視聴
配信期間：令和2年12月22日（火曜日）9時から
12月28日（月曜日）17時まで

対象者：一般市民、障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

広報：チラシの作成・配布（約4,800枚）
・当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載
・区市町村主管課長会等での説明、周知依頼
・「福祉保健」10月号、「広報東京都」11月号等への掲載依頼

参加者数：131名（会場参加） ※参考 動画視聴申込者256名

- (1) 受講者 102名（申込者129名）（視聴者数は不明）
所属等別内訳（複数該当があるため、受講者数と一致しない。）

所属等	人数
障害当事者・家族	15名
相談支援事業所	18名
障害福祉サービス等事業所	28名
就労支援機関等	2名
入所施設等	8名
医療機関	2名
民生委員・児童委員	3名
地域自立支援協議会委員等関係者	16名
行政	19名
その他	8名

- (2) 聴講者 29名

東京都自立支援協議会委員（登壇者1名を除く。）	11名
東京都自立支援協議会連絡調整会議委員	6名
東京都心身障害者福祉センター職員	12名

2 プログラム

テーマ 当事者の多様な想い・語りを聴くための仕組みを考える

第1部 当事者の多様な想い・語りを聴くための情報提供のあり方

<講師>

又村 あおい 氏（一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長）

(概要)

当事者の想いや語りを聴くためには、合理的配慮の観点からの情報提供や意思決定支援が必要であり、そのためのプロセス等についてお話いただいた。

- ・想いや語りを聴き取る相手、情報提供したい相手は誰かを考える。
- ・東京都障害者差別解消条例の「合理的配慮」の考え方が役立つ。相互理解によって、建設的対話を行い、対応可能な代替案を示すなど、合理的配慮を模索することが大事
- ・知的・発達障害のある方の想いや語りにたどり着きやすくするために、写真やイラストを活用する等、できるだけわかりやすく伝えることが情報提供のポイント
- ・意思決定支援には、本人が理解できる形で情報提供と見通しの提供が重要。情報提供には、提供側の成育歴や価値観が混入することがあるので、留意する必要がある。

第2部 私が言いたいことを言えた時

<パネリスト>

櫻田 なつみ 氏（株式会社MARS、就労支援事業所co opus 就労支援員兼ダイケア就労支援担当、精神障がい者ピアサポート専門員）

中田 健士 氏（株式会社MARS代表取締役、精神保健福祉士）

岡部 宏生 氏（特定非営利活動法人境を越えて理事長、一般社団法人日本ALS協会理事、一般社団法人日本難病・疾病団体協議会理事、特定非営利活動法人DPI日本会議常任委員）

<コーディネーター>

岩本 操 氏（東京都自立支援協議会会長、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授）

(概要)

障害や難病のある方が、言いたいことを言える時、言える環境、言える状況とはどのようなことが等について発表、ディスカッション

令和2年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

3 プログラム構成のねらい

(実行委員による検討より)

1 テーマ設定理由

- 「当事者の想い・語りを聴く」ことが特別なことではないあり方になってほしい。
- 今年度の協議事項である「当事者の多様な声を聴くための具体的な仕組みをつくる」に直結したものをテーマに設定すると良いのではないかと。
- 折からの情勢や第6期の活動経緯を踏まえ、障害当事者の生きにくさを傾聴し、社会参加・社会活動のために必要な情報やコミュニケーションにおける合理的配慮のあり方を取りあげることで、協議会活動の活性化につなげたい。
- 当事者の方々の率直な声（想い）を伺い、そこから学ぶことを重視したい。一方で、このセミナーを、今後の各地域における取組に具体的に活かしていけるような進行にするためには、当事者の方をお招きすることとあわせて、参加者が参考にできるような好事例をお話いただく行政関係者の方、協議会委員の方などに登壇いただいても良いのではないかと。
- 地域社会における当事者の方の声をしっかり傾聴しながら、また、各地域での取組の経過（成果）にも学びながら、協議会ははじめ既存の仕組み・システムの活用・活性化（改革・開発）を行うことを通じて、共生社会の実現を目指すというイメージでどうか。

2 開催方法

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンライン配信とすることは賛成だが、オンライン配信のみというよりは、感染予防を考慮した人数等による会場とオンライン配信とを並行して開催できると良い。

4 参加者アンケート

回答数：125（会場参加 82名、動画視聴 43名）

第1部 基調講演

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考に ならなかった	全く参考に ならなかった	無回答
78 (62.4%)	46 (36.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

<自由意見>

- 意思決定支援についての分析がわかりやすかった。情報提供のあり方について、今までの自分のやってきたことを振り返ることができた。
- 「話せる場を作る」ということが特に心に残った。自立支援協議会でも、日頃の中でも重要になると思う。
- 意思決定支援について情報提供とそれを理解し統合しなくてはならないことを、私たちは無意識に行っていることを改めて理解しました。また、想いも変化すること、それにとことん付き合える支援者でありたいと思いました。

第2部 パネルディスカッション

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考に ならなかった	全く参考に ならなかった	無回答
84 (67.2%)	39 (31.2%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)

<自由意見>

- 当事者が語る言葉だからその力強さと説得力の強さをひしひしと感じた。今後はますます当事者が語る機会と場が増えてほしいと思った。
- 障害ゆえに自分で生死を選択しなければならない現実は、衝撃だった。誰しも、どう生きていくかを自由に選択できる制度や環境にあるべきだと思います。
- 合理的配慮は画一的なものではなく、人との関係で作っていくものだった。その橋渡しとしてのピアサポーターに重要な役割があると感じた。